

<研究名称>

超音波（エコー）を用いた末梢静脈カテーテル留置実践看護師育成プログラムの構築

<実施責任者及び実施担当者>

実施責任者 救急科 川田 大輔、看護師長 大塚 操

実施担当者 看護師 赤堀 貴政

<研究期間>

旭川赤十字病院倫理委員会承認後から 2024 年 10 月

<診療・研究の目的>

末梢確保困難の背景には、患者の体型（肥満など）による末梢静脈の目視・触知困難、蛇行し細く脆弱な静脈しか確認できない上肢、疾患による浮腫や加齢に伴ういそう、高齢者に多いスキンテアを有する脆弱な皮膚、シャント肢や乳がん術後などによる穿刺制限など、数多くの末梢確保困難をきたす原因が考えられる。そのような患者に対し、看護介入が行えないか検討した結果、エコーを用いた末梢静脈カテーテル留置を実践することに至った。そこで、救急外来・HCU 看護師にエコーを用いた末梢静脈カテーテル留置技術を習得し、実践できる看護師を育成するためのプログラムを構築し教育を行った経過を報告する

<実施内容（方法）>

1、研究デザイン：実践報告

2、研究方法

対象：HCU・救急外来所属の看護師

研究期間：旭川赤十字病院倫理委員会承認後から 2024 年 10 月

報告内容：エコーを用いた末梢静脈カテーテル留置プログラムを構築し、プログラムを用い対象にエコーを用いた末梢静脈カテーテル留置手技を教育した実践内容（以下詳細）

- ・以前行った救急外来での当院の末梢確保困難患者の実情の考察
- ・末梢確保困難の要因の分析
- ・末梢確保困難患者への看護介入の考察
- ・末梢確保困難患者への看護介入（エコーを用いた末梢静脈カテーテル留置） の実際
- ・看護介入（エコーを用いた末梢静脈カテーテル留置）を普及するためのプログラムを、一般社団法人次世代看護教育研究所（RINGNE）の研修をもとに構築、評価基準を作成した。

分析方法：構築したプログラムを用い実践看護師を育成した人数

<危険性（副作用）等>

通常の末梢静脈確保手技と同様、侵襲的な実践になるため合併症のリスクは存在する

<倫理上問題になると考えられる事項>

特になし

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 看護師 赤堀 貴政 TEL : 0166-22-8111、FAX : 0166-24-4648